

ワクチンについて

20 年も前になるが消毒・消臭の防疫業務を始めた時に嫌な話を聞いた。

先進国は後進国を助けないと・・

1、HIV・AIDS ワクチン

変異が早く作成したワクチンの効果を活かせない。

普通のウィルス対策の弱毒性手法が通用しない(ウィルスの変化により強毒化してしまう可能性がある)

未だにワクチン治療薬ともに開発途上。1981 年、米国ロサンゼルスで症例の確認。

2、エボラ出血熱 ワクチン

効果的ワクチン、治療薬は確率していない。

根本的な治療法も無く、下痢であれば点滴、併発を防ぐ抗菌薬、鎮痛剤、栄養食、ビタミン剤を投与し、罹患者の免疫力に依存する対症療法しかない。1976 年、現南スーダンで初症例。

※ ここまで(1 と 2)が厚労省 FORTH 及び国立感染症研究所 NIID を参照

2020 年、新型コロナウイルス(COVID-19)でワクチンについての報道が頻繁にある。

大国の反応、発表に至っては何故か眉唾のように聞こえる。

米国、中国、ロシアの発表には安全性よりもあからさまな覇権主義の臭いを感じてしまう。

上に記したように HIV、EVOLA をワクチン開発のスピードはあまりに遅く、成果も得られていない。

それほどに難しい。

ワクチンは感染を防ぐというよりも症状の軽減を目的とする程度のものだが安全性を確実なものにするとなると大変な労力、時間が必要となる。

それなのにコロナに関してはあまりにも短期間での臨床試験、認可となりそうな勢いだ。

先進国で集団感染が発生したならばこの度のコロナのように皆がワクチン、治療薬の開発に着手する。

製薬会社も確実に利益を得られるからだ。

しかし、エボラのように感染地域が後進国だと開発の着手も鈍化することも現実だ。

ワクチンというのは 20 万人くらいが接種した後でなければ信用できないと研究者から聞いたことがある。

その臨床試験、治験などというが結局は合法的人体実験も後進国の人間が対象となるのだろうか。

ワクチンや制度を否定するつもりもないが弱肉強食の人間の嫌な部分の話を垣間見る気がした。

2020 年 9 月 27 日 代表取締役 石栗 康春

曲友(かねとも) 新道有限会社 札幌 URL:<https://deo.2lala.net>

曲友(かねとも)